



南スーダンのジュバで、南コルドファン州から逃れてきた難民を登録をする国連ボランティア池田直史さん（UNHCR保護官補）。（UNV 2012）

## 平和構築

「ブルーヘルメット」は国連平和維持活動の顔ですが、この活動は十分な文民の支援がなければ成り立ちません。国連ボランティアは、この国連平和維持活動で大きな役割を担い、多種多様な業務を支援しています。国連平和維持活動に従事する国連ボランティアの数は、文民スタッフ全体の三分の一にもなります。国連ボランティアは、1992年から国連平和維持活動局や政務局のミッションを支援しています。今日までに1.4万人の国連ボランティアが40以上の平和維持活動で活動しました。加えて、国連ボランティアは、特に脆弱な状態にある紛争後の環境で選挙支援の計画や実施等に大きな貢献をしています。2012年には、コンゴ民主共和国、南スーダン、コートジボワール、リベリア等の平和維持活動に2,137名のアフリカ人国連ボランティアが従事しました。

日本政府は、2007年から平和構築人材育成事業に対して資金協力をしています。この支援によりUNVは、技術や技能、そして献身的な心を持つ日本やアジア人国連ボランティアを紛争予防や復興支援、平和構築や人道支援の分野に派遣しています。本事業を通じて2007年から2013年の間に派遣された国連ボランティアの総数は、113名にのぼり、派遣国は、コートジボワール、エチオピア、ギニアビサウ、ケニア、リベリア、ルワンダ、シエラレオネ、南スーダン、タンザニアを含む32カ国に及びます。

「平和構築とは、関係性を作り上げること。私の国連ボランティアとしての存在そのものが、南スーダンの人々の道徳心を高め、勇気、そして希望を与えるのだと、南スーダン人の同僚が私に言ってくれました。」山中智博さん、UNDP南スーダン事務所（平和構築人材育成事業冊子より）



ブルキナファソの国連ボランティア：12月5日の国際ボランティアデーの日、ブルキナファソでは、国連ボランティアとPNVBボランティアが連携して海岸の清掃を行いました。（Philippe Perret, 2010）

## 国連ボランティア計画（UNV）とアフリカ

### 平和と持続可能な開発のためのボランティアリズム

国連ボランティア計画（UNV）はボランティアの動員を含むボランティアリズムの推進を通じて持続可能な人間開発を地球規模で支援する国連機関です。UNVは人々が自身の生活をより良いものにするための活動に参加する機会を充実することで平和と開発に寄与しています。ボランティアリズムは普遍で包摂的であり、多様性を尊重します。UNVは自由意志、責務、参加、団結といったボランティアリズムの価値を推進します。

UNVはボランティアリズムを通じて平和と開発のための結果を生み出します。そのためにUNVは市民社会、各国連機関、政府、民間セクターと協働して、ボランティアリズムを啓発し、開発計画に統合し、ボランティアを動員します。ボランティアリズムに潜在する力がUNVや世界中のボランティアの活動の源泉となっています。UNVは100種類以上の専門分野で、毎年6,800人以上、159カ国出身の国連ボランティアを国内外で動員し、127か国に派遣しています。国連ボランティアの3分の2は途上国の出身でそのうち3割は自国で活動しています。

2012年には、1257人の国連ボランティアがアフリカ大陸に派遣され、662人のアフリカ人国連ボランティアがアフリカ大陸以外の国々に派遣されました。同時に2611人のアフリカ人国連ボランティアがアフリカ大陸内での活動に従事しています。

この冊子はUNVのアフリカでの活動を特に、若者のボランティア活動を推進する取り組み、平和構築、地域密着型の気候変動適応分野での支援を中心に紹介します。

「世界中の多くの若者たちは自分たちのコミュニティのためにボランティア活動をすることで、平和と開発のために形のある貢献をしています。市民参画は結束力のあるコミュニティを作り、若者の社会への統合を促進する主要な要素です。ですので、若者にこうした活動に参加する機会を確保するための努力がなされるべきです。」2010年の国際ユース年の開始にあたって発表された国連機関の長の共同声明より（2010年UNV年次報告書7ページ）







スーダンの女性器切除の習慣を撲滅するためにUNVはコミュニティの女性、女兒、男性、少年たちをボランティアとして動員し、スポーツイベント等を通じてピア・エデュケーションを行っています。(Blazej Mikula 2008)

### 若者のボランティア活動の拡充

UNVは若者のボランティアリズムをミレニアム開発目標と持続可能な開発を達成するための人間中心の資源として推進しています。より多くの市民の参加を通じて、若者のボランティア活動は雇用を促進し、若いリーダーの形成に貢献しています。2012年には、996人、すべての国連ボランティアのおよそ14%が、21歳から29歳の若者でした。若者のボランティア活動の推進は1976年の国連総会決議に基づいて以前からUNVが取り組んでいるプログラムで、これまでナイジェリア、ブルキナファソ、ウガンダ、そして日本など世界の10の大学と連携して若者が社会、経済、人間的な潜在能力を開花できる機会を提供してきました。参加したボランティアは自身のコミュニティの変革を主導するような市民参画の強い意識を獲得します。

「私たちはまずは、自分たちのコミュニティが受ける影響について考え、その問題に対してコミュニティの構成員を動員していきます。例えば、HIV/AIDSの啓発、環境保全農業、家畜の飼育とマーケティングなどのトレーニングや関連する活動の機会を提供しています。私たちの取り組みはうまくいっていると思いますし、世界中の人々に学んでもらいたいと思っています。」ザンビアのユース・グループのリーダー、ジョセフ・バンダさん(2010年UNV年次報告書27ページ)

### アフリカの地域レベルのユース・ボランティア構想の支援

UNVとアフリカ連合委員会(AUC)は、アフリカでの地域、国家レベルの若者のボランティア活動やそれを支援する環境作りのための政策形成のためのパートナーです。このパートナーシップを通じてUNVはアフリカ連合に対して、54の加盟国の若者が集まり、技能や知識、創造力を共有し、グローバル化した世界とのつながりを強化するようなユース・ボランティア・プログラムの創設を提言してきました。西アフリカ経済共同体(ECOWAS)とUNVは協働してギニア、ギニア・ビサウ、リベリア、シエラレオネで、平和構築や開発に貢献する若者のボランティア・プログラムを創設しました。2012年には、UNVとAUCは新しい覚書に調印し、アフリカ大陸全土で若者のボランティア・プログラムを発展させるために協働し、政府や地域共同体の能力強化を行っていくことになりました。

### アフリカにおける若者のボランティア

UNVは、ブルキナファソ、トーゴ、マリ、カーボヴェルデ、ニジェール、セネガルで、教育や保健、環境や経済開発の分野におけるミレニアム開発目標の達成に向けて、若者ボランティアの動員を通じて政府や市民社会を支援をしています。日本政府の支援も一部含まれたルワンダで実施された若者プログラムでは、ルワンダの若者と青年の権利を推進し、自身の社会での責任ある役割を担うことを推奨しました。このプログラムは、10歳から24歳の若者と共同で、若者が批判的に物事を考え、自身の権利を理解し、そして自由に表現できるように、若者と青年を育成する政策を支援しました。

日本政府の財政支援を受けて実施されているザンビアでの「アジア青年協力隊プログラム」は、アジア人ボランティアの技能を活用した、南南協力の好事例です。これはアジア人ボランティアをアフリカへ派遣するシステムを提供し、それにより農業や民間セクター、特に中小規模の農家への技能や知識を伝播させるものです。

「UNVのワークショップへの参加を通じて私は、年配者や村人との意見交換から、私の地域についてたくさんの事を学びました。また、団結や共同作業の持つ価値について理解することができました。人々の憩いの場で地域開発を支援する人々やパートナーと話し合うことができたことは有益でした。私は、これまで以上に村の生活が向上するように支援をしたいと思っています。」イヒビ・サアディアさん、モロッコのコミュニティー・ボランティア(2010年UNV年次報告書)

### 地域密着型適応プロジェクト

UNVは、ニジェール、ナミビア、モロッコを含む世界7カ国で持続可能で、地域密着型の適応事業を通じて、NGOなどの49の市民社会組織に対してプロジェクトの立案や革新的なモニタリング手法の導入を支援し、5,800以上のコミュニティ・ボランティアを動員しました。また国連ボランティアは、地域密着型の適応に関する自助努力グループの調整員を育成し、脆弱性を縮小させる為の調査を実施し、コミュニティの事業の進捗管理をし、知識主体型の製品を開発しました。ナミビアのあるコミュニティでは、農業プロジェクトを開始し、トウモロコシやヒマワリ等の主食を栽培することで、収入向上を成し遂げ、コミュニティの食料の安定的な生産を実現しました。



オンガンワ市場でトウモロコシを販売: ナミビアのオンガンワ市場で余分に収穫できたトウモロコシを販売する村民。トウモロコシは、「コミュニティ中心の適応プロジェクト」の一部として生産されました。グループの構成員は、余剰の収穫に恵まれ、所得を得ることができました。(Tuhafeni Nghilunaye/Creative Enterprise Solutions, 2010)